

【経済学史・社会思想史】 八田 幸二 ゼミ



演習テーマ：現代の政治・経済思想——「政府」の果たすべき役割をめぐって——

私たちを取り巻く経済社会の状況は、めまぐるしく変化しています。近年、イギリス、アメリカ、そして、わが国でも規制緩和や構造改革をスローガンに「小さな政府」の実現が目指されてきました。しかし、不況が深刻化すると、政府は市場へ介入して失業や経済的格差を是正し、安定的な経済社会の実現を目指すべきだと主張されるようになりました。

私たちは、このような経済社会の状況変化にともなう政府の役割に関する考え方の変化をどのように理解すればいいのでしょうか。また、「福祉国家」と「小さな政府」では、どちらがいいのでしょうか。そして、今後の経済政策や社会保障制度は、どのようにあるべきなのでしょう。八田ゼミでは、こうした政府の果たすべき役割に関する問題を「数式」や「グラフ」を使った経済理論によってではなく、私たちが日常使用している「言葉」によって表現された「経済思想」や「社会哲学」を通じて検討していきます。

また、この八田ゼミでは、現代を代表する経済学者たちや社会哲学者たちの「政府」や「市場」に関する政治・経済思想を研究するとともに、「女性に対する政府の就労支援のあり方」、「少子・高齢化対策」、「若年失業者対策」、「ワークフェア政策」、「生活保護支給とベーシック・インカム」といった現代の日本における諸問題も研究しています。

<活動内容・ゼミ紹介>

毎週のゼミ授業では、ゼミ生の皆さんと相談して選んだテキストを輪読形式で検討し、議論を行ないます。具体的には、「報告者」や「司会者」を決めて討議を行ないます。そして、ゼミでの報告は、ゼミの開始時期に受講する講習会で習得した「パワー・ポイント」を使用して行なわれます。もちろん、毎回のゼミは、ゼミ生の人数を考慮して一人だけに負荷がかかり過ぎないようにしながら進められますので安心してください。

ハイエクやフリードマンといったノーベル賞受賞者やガルブレイスのような著名な経済学者たちへのインタビューを織り交ぜてケネディー、サッチャー、レーガンらの活躍を描いたアメリカで制作されたドキュメンタリーを観て、政府と市場をめぐる興亡の歴史をビジュアル的に学んだりもしています。また、サッチャー政権下のイギリスで「小さな政府」路線が推し進められていた時代の雰囲気を感じ取るために、例えばイギリスの『ブラス！』や『リトル・ダンサー』といったヒット映画をゼミ生に観てもらったりもしています。

それから、このゼミでは、特にゼミ生の皆さんの「プレゼンテーション能力」の向上に力を入れています。現在、多くの企業が求めているのは、高いコミュニケーション能力をもった人材だといわれています。他人と円滑にコミュニケーションするためには、自分の意見をわかりやすく表現して相手に正確に伝える能力が必要とされます。しかし、そうした能力は、場数を踏まなければ手に入れられるものではありません。その経験を積む場こそが、ゼミなのです。

銀行員や証券マン、公務員などを目指す人にとって、これからの社会や経済のあり方に関する自分なりの意見をもつことはとても役に立つことだと思います。なぜなら、「就職活動」の面接で今の経済社会に対する自分の意見を問われたときに、はっきりと自分の意見を表明できれば高く評価されるに違いありません。

プレゼンテーションの「経験不足」や「引っ込み思案」が原因でうまく自己アピールができないというのは、明らかに損です。人生を左右する「就職活動」の面接で、ゼミの研究内容を問われることがあるでしょう。また、「就職活動」中に他大学の学生たちとのグループ・ディスカッションに参加して自己アピールをしなければならない場面もきっとあるに違いありません。そんなとき、ゼミでのプレゼンテーションの経験を活かして正々堂々と自分の意見を主張できる、そんな学生にこの八田ゼミの皆さんにはなって欲しいと思っています。

毎回のゼミ授業でのプレゼンテーションの成果として、毎年秋に経済学部と商学部合同で開催されるプレゼンテーション大会で連続優勝したり、卒業論文を英語に訳してパワー・ポイントを使って報告したりするゼミ生などいます。加入時にはシャイだったゼミの先輩たちの多くは、厳しい「就職活動」を勝ち抜いて銀行員や証券マンになったり、県庁や市役所に採用されて公務員になったりしています。自分のことを「引っ込み思案」で「恥ずかしがり屋」だと思っている経済学部生の皆さん、ぜひこの八田ゼミで一緒にがんばっていきましょう！！

<授業時以外の活動・レクリエーション>

毎週の授業以外では、ゼミ生の皆さんの提案によって「懇親会」、「レクリエーション活動」、「サブゼミ」などを行いません。また、当ゼミでは、毎年夏に「ゼミ合宿」をゼミ生との相談のもとで行ないます。合宿は、各種行事によって仲間同士の親睦を深め、日頃のキャンパスでは見ることができない各ゼミ生の真の姿をお互いに知ることができるいい機会です。合宿では、真剣に勉強し、レクリエーションなどを通じて親睦を深めています。

この八田ゼミでは、ゼミのルールを守ることができる人でありさえすれば、経済学に関する「予備的知識」があるかないかは一切問われません。心理学、文学、歴史学、哲学、政治学といった経済学以外の学問、そして、映画、絵画、音楽、小説といった芸術に興味があるという人も大歓迎です。多くの経済学部生が、この八田ゼミへ入りたいと思っています。